

わが

上杉家ゆかりの都市交流 ネットワークづくり

はじめに

米沢市は国内の6都市と姉妹都市の盟約を結んでいます。南から、沖縄県沖縄市、宮崎県高鍋町、愛知県東海市・西尾市、新潟県上越市・南魚沼市です。相手都市に合わせて若干名称の異なるものもありますが、事実上の姉妹都市



クールビズ期間、かりゆしを着用する職員

に変わりはありません。私が市長に就任した12年前は西尾市を除く5都市でした。いずれも上杉家とゆかりのある土地ばかりで、偏り過ぎではと感じたのですが、よく考えてみると、上杉謙信や上杉鷹山を核としたテーマのある交流ネットワークを構築できることに気付き、逆に上杉家とのゆかりがあっても、まだ交流していなかった自治体と交流を始めました。その結果、平成25年に西尾市と友好都市になったほか、宮崎県串間市、福岡県朝倉市、富山県魚津市とも交流を続けています。その交流事業のうち、ユニークと思われるものをいくつか紹介します。

かりゆしの着用

姉妹都市・沖縄市の文化を市民

に紹介すべく、米沢市役所では4年前からクールビズの期間、かりゆしを着用してもよいことにしました。まだ珍しかったかりゆしの華やかな柄に来庁者との会話が增えた、職場内の雰囲気明るくなったなど職員・市民双方から好評で、今では夏の風物詩となっています。本年の沖縄県衣類縫製品工業組合カタログには本市職員のかりゆし着用風景が大きく紹介されました。

吉良サミット

毎年、12月になると、決まってテレビに登場する「忠臣蔵」。仇役の吉良上野介は地元西尾市吉良町では名君として慕われており、

上杉鷹山の4代さかのぼった先祖でもあります。平成26年12月、西尾市との友好都市締結1周年を記



西尾市との友好都市締結1周年を記念して開催した「吉良サミット」

念して、創作物の「忠臣蔵」と史実の両方から赤穂事件を考察する「吉良サミット」を開催しました。出席者は赤穂事件に関係する岩手県一関市、長野県諏訪市、西尾市、本市の4市長。市民からも反響が大きかったのですが、史実を再考する動きが広がり、本年の12月に西尾市で第2回目が開催されることになりました。

修学旅行歓迎コント

東海市のすべての中学校が修学旅行で本市を訪れています。上杉



市職員が羽黒神社の社殿で東海市の中学生にコトを実演

鷹山が師の細井平洲を江戸から米沢へ招いた際、城から出て7kmほど郊外の神社で出迎えたという故事は、戦前の修身の教科書に「師を敬え」と題して掲載されました。その故事の舞台となった羽黒神社の社殿で東海市の中学生にお見せするのが、15分ほどのコトです。演じるのは4人の市職員。現代にタイムスリップした上杉鷹山と細井平洲がバスツアーに参加し、ガイドや学生に平洲の教えや鷹山の実践を伝えるという内容です。舞台を通じて、鷹山・平洲について学ぶとともに職員の熱意も伝わっていると思います。

姉妹都市交流は「学び」

平成25年11月、来日間もないキャロライン・ケネディ駐日米国大使が都内での講演の折、父のケネディ大統領は上杉鷹山を尊敬していたと発言されました。この発

言は市民に大きな喜びを与え、ケネディ大使の本市来訪への期待が急速に高まりました。本市では大使に招聘の手紙を出すだけでなく「上杉鷹山について学びながら大使をお待ちする」ことにしました。姉妹都市・交流都市にご協力をいただきながら、平成26年2月の「上杉雪灯籠まつり」では「鷹山サミット」、5月の「米沢上杉まつり」では、「謙信・景勝サミット」を催しました。そして、ついに9月の「なせばなる秋まつり」にケネディ大使が来訪されました。

姉妹都市交流の行き着いたところは、「学ぶ」ことでした。市民だけでなく職員もまた学んでいきます。「なせばなる秋まつり」の折に姉妹都市・交流都市の職員が米沢に集まって日ごろの行政課題について学び合う「鷹山塾」もその一つです。鷹山の改革が目指したように、経済の豊かさとともに精神の豊かなまちをつくるための勉強会です。姉妹都市交流事業が、市民や市職員にとって、普段振り返ることの少ないわがまちについて深く考える機会になればと考えています。

上杉家とのゆかり

沖縄県沖繩市	上杉茂憲(13代藩主)が第2代沖縄県令となる
宮崎県高鍋町	上杉鷹山(9代藩主)の実家・秋月家の領地
宮崎県串間市	上杉鷹山(9代藩主)の師・細井平洲の出身地
福岡県朝倉市	上杉綱憲(4代藩主)の娘・豊が嫁いだ黒田家の領地。豊は外孫の鷹山を実家・上杉家の跡継ぎに押しした
愛知県東海市	上杉鷹山(9代藩主)の父・吉良上野介の領地(旧吉良町ほか)
愛知県西尾市	上杉綱憲(4代藩主)の父・吉良上野介の領地(旧吉良町ほか)
富山県魚津市	上杉軍と織田軍との間で激戦となった魚津城の所在地
新潟県上越市	上杉謙信・景勝の居城、春日山城の所在地
新潟県南魚沼市	上杉景勝・直江兼統の誕生地

プロフィール



米沢市長
安部三十郎

◆ 面積 548.51km²
◆ 人口 8万4315人
◆ 世帯数 3万2534世帯

〔将来都市像〕ひとが輝き 創造し続ける学園都市・米沢

〔まちの特徴〕上杉家の歴史・文化と、有機E.L等の最先端技術の集積が進むものづくりのまち



〔特産品〕米沢牛、米沢鯉、舘山りんご、雪菜、豆もやし、米沢織、笹野一刀彫、有機E.L照明

〔観光〕上杉神社、上杉家廟所、秘湯を含む米沢八湯、田んぼアート

〔イベント〕米沢上杉まつり、米沢牛肉まつり、上杉雪灯籠まつり、なせばなる秋まつり

※ 面積は国土地理院「全国都道府市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

ウォーキングを基本に据えた まちづくりと地方創生

はじめに

東松山市は埼玉県のほぼ中央に位置し、東京都心から約50kmという立地条件と恵まれた交通体系を背景に、首都圏近郊の住宅都市として着実に発展を遂げてきました。その一方で、比企丘陵の美しい



平成24年に創建1300年を迎えた箭弓稲荷神社

自然に囲まれ、市の花「ぼたん」や上沼公園・下沼公園の桜、物見山公園のつつじ、正法寺の樹齢700年の大イチョウなど四季折々の花がまちを鮮やかに彩るとともに、平成24年に創建1300年を迎えた箭弓稲荷神社をはじめ数多くの文化財を有しています。平成23年10月には埼玉県では初となる三角縁神獣鏡が発見されました。古くはヤマト王権とのつながりを示す第一級の発見で、本市が豊かな自然と悠久の歴史を併せ持つまちであることを物語っています。

ウォーキングを基本に据えたまちづくり

毎年11月初めに開催するウォーキングの祭典「日本スリーデーマーチ」は、昭和55年の第3回大会から本市を会場とし、本年度第38回を数えます。今では、日本全国、世界各地から3日間で延べ約10万人のウォーカーが集まる、名実ともに日本最大・世界第2位のウォーキング大会へと成長しました。本市では、ウォーキング文化を全国に発信するための取り組みも進めています。本年2月には、県内で2日間以上のウォーキング大会を開催する5市による「埼玉県マーチングリーグ」を結成しました。県内5大会にそれぞれ参加し、2日間完歩すると「リーグ賞」が授与されるなど、埼玉をウォーキングのメッカにするべく、各大会の交流促進と魅力向上を図っています。

平成24年に埼玉県から指定を受けた健康長寿プロジェクトとエコタウンプロジェクトにおいても、ウォーキングを取り入れることで、市独自モデルを構築・発信しています。健康長寿プロジェクトは、「毎日1万歩運動」と「プラス1000歩運動」を実施し、毎日1万歩運動では、参加者に毎日1万歩を歩くことを目標に6カ月間、プラス1000歩運動では、健康づくりのきっかけとして普段の生活にプラス1000歩以上を目標に3カ月間のウォーキングに取り組みました。平成26年に健康効果を検証したところ、毎日1万歩運動は、筋力の増加と中性脂肪の低下、そして、医療費が年間で約2万4000円抑制できるという結果が出ました。エコタウンプロジェクトは、市民のウォーキング活動をポイント化し、地域通貨と交換するエコマネー制度「東松山市ECO・PO（エコポ）」を導入しました。ウォーキングの推進と併せ、省エネ活動の促進、地域経済の活性化も期待できます。このように、まちづくりの基本

にウォーキングを据えることで、今後も東松山発のウォーキング文化を広く全国に発信してまいります。

地方創生は絶好のチャンス

全国的に人口減少、少子高齢化が大きな行政課題となり、地方自治体は、今後生き残りを懸け、地域の活性化と定住人口の確保に取り組んでいくこととなります。国の支援による地方創生がスタートする中、豊富な地域資源を有する本市にとって、地方創生は、自立した地域づくり、まちづくりになされた風を吹き込む絶好のチャンスととらえています。本市では、「産業の活性化」「子育て支援」「観光振興」の3つを柱として、地方創生に取り組めます。

「産業の活性化」では、積極的な企業誘致を進めることで、雇用の創出に取り組むとともに、就業支援や地元産業との連携により、地域内循環型経済の構築を目指します。また、農業振興として、特産品の梨やポロタン栗を使用した加工品の商品化や、戦略作物として白いトウモロコシ「ピュアホワイト」の生産・販売の拡大を図ります。

「子育て支援」の充実、人口減

少に歯止めを掛けるための必要不可欠な取り組みです。本市では、1人1人のニーズにきめ細かく対応し、子どもの発達段階に応じた情報提供や相談を行うため、本年から「子育てコンシェルジュ」を配置し、切れ目のない子育て支援を行います。また、親子の交流や情報交換の場となる子育て支援センターを新設するなど、「子育てが楽しいまち」を目指し、子育てのしやすい環境づくりを進めます。

「観光振興」では、一度は訪れたい、そして、このまちに暮らしたいと思えるまちづくりを進めます。本市では、本年2月に東松山市観光振興基本計画を策定しました。今後、本計画に基づき、観光業と諸産業が連携することで、魅力ある地域づくりに取り組めます。また、本年度進める「まなびのみち」創造プランでは、廃線敷を活用しウォーキングコースで結ぶことで、地域資源から観光資源への飛躍を図ります。ここでも、ウォーキングをまちづくりに取り入れ、東松山らしさを演出します。

おわりに

現在、本市では平成28年からス

タートする市の最上位に位置する「第5次総合計画」の策定を進めています。本市の持つ高いポテンシャルと発展可能性を強みに、「子ども」「健康福祉」「環境」「生活基盤」「活性化」「協働」の6つをまちづくりの柱とします。今後も現場主義を貫き、東松山市をこよなく愛する市民の皆さんとともに歩みながら、着実かつ果敢に将来像の実現を目指し、市政運営に全力を尽くします。

プロフィール

- ◆ 面積 65・35 km²
- ◆ 人口 8万9252人
- ◆ 世帯数 3万7585世帯

〔将来都市像〕住みたい、働きたい、訪れたい 元氣と希望に出会えるまち 東松山

〔まちの特徴〕比企丘陵の自然に囲まれ、四季折々の美しい花が溢れる「花とウォーキング」のまち



東松山市長
森田光一



〔特産品〕梨、やきとり、味噌だれやきそば、ポロタン栗、とうもろこし「ピュアホワイト」

〔観光〕箭弓稲荷神社、東松山ぼたん園、埼玉県子ども動物自然公園

〔イベント〕日本スリーデーマーチ、ぼたんまつり、東松山夏まつり、ひがしまつりやま花火大会



ウォーキングの祭典・日本スリーデーマーチ

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

都市基盤の整備を飛躍の礎に 「みらい創生」を進める市政運営

はじめに

高槻市は、大阪市と京都市のほぼ中間に位置し、交通の利便性が非常に高いことがまちの特徴の一つとなっています。JRと阪急電車が市の中央部を東西に走り、大阪市や京都市へは、JRなら15分以内、阪急電車なら約20分という好アクセスです。さらに、大阪府内では、大阪市を除き、唯一有している市営バスが鉄道駅を中心に市内各所を運行、便利な移動手段として、市民の暮らしを支えています。

また、JR高槻駅・阪急高槻駅駅周辺の中心市街地には、大型商業施設が立地し、両駅間をつなぐ商店街などがにぎわいを見せている一方で、地域の半分ほどを森林が占めており、市街地に近接

した場所に名勝「撰津峡」などの豊かな自然が残るまちでもあります。

さらに、継体大王の陵墓といわれる「今城塚古墳」、藤原鎌足の墓であることが確実視されている「阿武山古墳」をはじめとした数々の古墳群や、キリシタン大名・高山右近で有名な「高槻城跡」など歴史的文化財を数多く持ち、西国街道沿いや伝統を守り続ける酒蔵もある富田地区の旧寺内町などには歴史的な街並みも残っています。にぎわいのすぐそばに、歴史が息づいているのも本市の魅力です。

このように都市の利便性と豊かな自然・歴史など、さまざまな魅力を併せ持つ本市は、さらに便利で住みやすいまちへと進化し続けています。

進むビッグプロジェクト

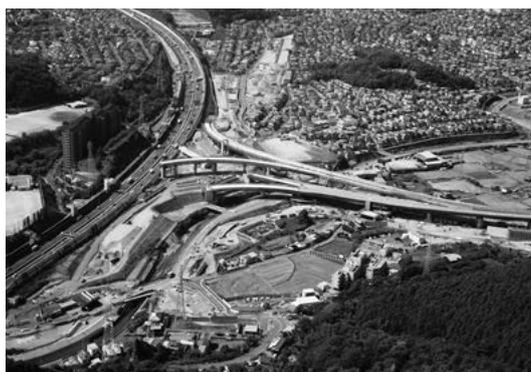
都市基盤の面では、現在、新名神高速道路（高槻～神戸）が、平成28年度の完成を目指して整備が進められており、併せて、新名神高速道路や名神高速道路に乗り入れることができる高槻インターチェンジ（仮称）も整備される予定です。市内にインターチェンジという広域交通の玄関口が新たに設けられることで、さらなる交通利便性の向上や産業振興など、まちの活性化が一層図られるものと、大いに期待しています。

また、中心市街地から徒歩圏内にある京都大学附属農場の移転に伴い、その跡地の一部を「安満遺跡公園」（20・9ha）として整備する取り組みを進めています。公園名称にもなっている安満遺跡は、

弥生時代前期の環濠集落で国の史跡に指定されています。

この6月に、公園用地内での発掘調査において、当時の大規模な小区画水田跡や、水没後の水田から墓地などが発見されました。居住域、生産域、墓域の全部が揃い、しかも良好な保存状態で見つかったのは、全国でも初めてで、今後の弥生文化の研究にも大きく寄与する極めて貴重な例と評価されています。

この史跡安満遺跡を保存・活用しながら、市民の憩いの場、さら



新名神高速道路・高槻IC（仮称）周辺



ICT機器を使った授業の様子

子育て・教育環境の 充実に向けて

には、まちの新たなシンボルとするため、防災機能も備えた緑豊かな公園として、平成31年の一次開園および平成33年の全面開園に向けて公園づくりに取り組んでいます。

本市では、子育て世代をはじめとする定住人口の増加を目指し、子育て・教育環境の充実に取り組んでいます。

まず、子育て支援の分野では、課題であった待機児童の解消を目指し、認可保育所の整備による定

員の増加をはじめとする、さまざまな取り組みを進めてきました。その結果、本年4月1日現在の「保育所等待機児童数」（国基準）は、平成26年度に引き続きゼロとすることができました。併せて、年間を通じた待機児童ゼロを目指し、平成26年12月から高槻市立臨時保育室を開設しています。この臨時保育室では、入室機会を月3回設け、年齢ごとの定員は設定しないなど、年度途中での転入や育児休業からの復職によって、随時生じるさまざまな保育ニーズに柔軟に対応しています。

また、教育の分野では、子どもたちの学力向上に向けて、平成25年度から大阪府内では初の試みとして、小学校の全学年で35人以下の学級編制を整え、きめ細かで質の高い教育を実現しているほか、画像や映像を活用して児童生徒の理解を深める取り組みとして、電子黒板機能付きプロジェクターやタブレット型パソコンを活用したICT教育を推進しています。さらに、本年度からは、中学生の学力向上を目的に、民間企業と連携して、土曜日に学習支援を実施する予定です。

ずっと住み続けたい まちを目指して

現在、全国で地方創生の取り組みが進められています。国全体の人口減少という流れもあり、市町村のみの努力で人口増加に結びつけるには、厳しい状況があります。しかし、引き続き、定住人口増加への取り組みを進めるとともに、持続可能な都市構造への転換に向けても対応しなければなりません。

プロフィール

- ◆ 面積 105.29 km²
- ◆ 人口 35万5287人
- ◆ 世帯数 15万7730世帯

〔将来都市像〕「憩いの空間で快適に暮らせるまち」など

〔まちの特徴〕高い交通利便性と生活利便性、豊かな自然環境と数多くの歴史遺産などさまざまな魅力を有するまち

〔特産品〕富田の酒、原のどぶろく、

せん。

今後も、「みらい創生」をキーワードに、20年先、30年先を見据えて、本市が持つ特性を最大限生かしながら、都市としての飛躍の礎となる都市基盤の整備等を着実に進め、魅力と活力を高めていきます。さらに、子育て・教育をはじめとする施策の充実を図ること、市民の皆さんがずっと住み続けたいまちを目指していきます。



高槻市長
濱田剛史



高槻うどんギョーザ、寒天、服部シロウリ、梶原タケノコ、三箇牧トマト、今城焼

〔観光〕いましろ大王の杜、摂津峡、高槻城跡公園、神峯山寺、高槻森林観光センター

〔イベント〕高槻まつり、高槻ジャズストリート、こいのぼりフェスタ1000、天神まつり、高槻シティハーフマラソン、高槻クロスカントリー大会

※ 面積は国土地理院「全国都府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

曾於市（鹿児島県）

曾於市長

五位塚

剛

鹿児島黒毛和牛・鹿児島黒豚の生産地 自然豊かな大地で日本一元気な市民を目指して

畜産が80%

曾於市は、平成17年7月に旧末吉町・大隅町・財部町が合併して誕生し、本年度10周年を迎えました。本市は、鹿児島県の大隅半島の地域であり、宮崎県都市との県境に位置し、畜産を中心とする

農業のまちです。

企業では、南九州畜産興業（株）の黒牛・黒豚の加工処理施設があり、民間企業として地域に大きく貢献されています。焼酎用の甘藷・大根・白菜・里芋・レイシ（ゴーヤ）・ゴボウ・スイカ・ゆずなど多種の農作物が出荷されています。本市は、総面積約390km²のうち230km²（59%）が山林であり、現在、杉を中心として伐採が急速に進み、中国・韓国へ輸出がされています。

そして、田畑の農地が53km²（14%）で、畑地かんがいの水を利用した農作物の営農推進を進め、農家の所得を増やすことが最大の課題です。

農業総生産額が約410億円であり、そのうち80%が畜産の鹿児島黒毛和牛・鹿児島黒豚・ブロイ

ラーで320億円の生産額になります。

ゆずの生産は九州一

ゆずの生産を、高齢者生きがい対策で始めました。平成26年度作付面積では93ha、出荷量が630tです。市町村単位では、九州一の出荷量になると考えます。現在のゆずの加工品を増やし、特産品化を進めてまいります。

ふるさと納税制度をさらに活用し、黒毛和牛肉・黒豚・しゃぶしゃぶセット、そして、ゆずの調味料・ゆずそおダー（ゆずソーダ）など特産品の贈呈を行っています。大変人気の状況です。是非、曾於市へふるさと納税の支援をお願いいたします。

本市のホームページをご覧ください。
<http://www.city.soo.kagoshima.jp/>

弥五郎どん祭りと公園

毎年11月3日に大隅町では、鹿児島県下の三大祭りとして、全長約5mの大男「弥五郎どん」が、勇ましい姿で市内を練り歩き、名物である高架橋くぐりのイナバウアーが始まると、観客の歓喜の声と拍手であふれる、約900年の歴史がある「弥五郎どん祭り」があります。

飛鳥時代の隼人族と朝廷軍の戦いで、戦死者が多かった隼人族の慰霊のための儀式が始まりとして、います。「弥五郎どん」は、その時の、隼人族の首領（ドン）であり、農家・村民を守ったとも言われており、天皇に仕えた武内宿禰とも



ブランド牛としても名高い「鹿児島黒毛和牛」



およそ900年の歴史がある「弥五郎どん祭り」

言われています。祭り当日は、九州各県から10万人近くの観光客が訪れる大イベントです。

そのほか、11月23日に末吉町では、鎌倉時代の巻狩姿の騎手が参道で馬を馳せ、馬上から弓を引き3カ所の的を狙う、県の無形民俗文化財に指定されている流鏝馬が行われます。

11月に財部町では、「曾於市悠久の森ウォーキング大会」が開催され、全国遊歩百選の森に認定された大川原峽の悠久の森は、自然の中で森のせせらぎや照葉樹林を満喫できる遊歩道が約3km続き、観光スポットになっています。

お年寄りが元気 75歳以上の方全員に敬老 祝金3000円を支給

65歳以上の高齢化率が36%となりましたが、元気なお年寄りがたくさんいらっしゃいます。本年100歳になられる方が20人にもなります。

自分で野菜づくりを行い、料理して生活されている100歳の方もおられます。80歳、90歳の方でも、楽しくグラウンドゴルフに参加される元気なお年寄りが多いです。

本市は、75歳以上のすべての方々に、敬老祝金として毎年3000円を支給し、これからも元気で頑張ってくださいと励ましています。

市民が仕事をしながら、元気で余暇を楽しんでもらえることが第一であると市民に呼び掛け、元氣日本一をこれからも目指します。

人口減対策に独自支援

本市が誕生し10年の節目になります。しかし、現在人口が約5000人減少しています。今、住みやすいまちづくりを目指し、保育園・幼稚園の保育料の負担軽減を図るため、市独自の補助を行っています。そして、高校卒業相当時までの医療費の無料化も始めました。第3子以降の出産祝金10万円も大変喜ばれています。人口増対策の一つに、曾於市外からの転入者を増やすため地域振興住宅の新築二戸建(4LDK)貸家は、家賃が最高で2万1000円であり、若い世代の家族からの申込みが多く、現在までに100棟以上建設され空きがない状況です。

農林業担い手確保および将来ある商工業確立のため、新規就農

者・就業者に対し、2年間の補助金を支給し経営を支援しています。特に若者が、新規で農業を始める方が増えております。

終わりに、本市は、自然豊かな大地に太陽の恵みをたくさんいただいた農作物が収穫され、畜産加工品が製造されます。そのような中、道の駅すえよし・四季祭市場

プロフィール

- ◆面積 390・11km²
- ◆人口 3万8513人
- ◆世帯数 1万8518世帯

〔将来都市像〕豊かな自然の中で生命(いのち)の鼓動を感じるまち

〔まちの特徴〕大隅半島北部に位置し、自然環境に恵まれ、太平洋に注ぐ大淀川の源流点がある畜産のまち

〔市町村合併〕平成17年7月1日、末吉町、大隅町、財部町の3町が合併して誕生

〔特産品〕黒毛和牛、黒豚、ゆず、弥五郎すいか、甘藷、里芋、椎茸、お茶、



曾於市長
五位塚 剛



のランチバイキングが、九州・山口で満足度ランキング1位に輝きました。

JR(3つの駅があります)、高速道路(2つのICがあります)、空路(空港から40分です)をご利用いただき、ぜひ鹿児島県・曾於市へ足をお運びください。大歓迎お待ちしております。

米、白菜

〔道の駅〕道の駅すえよし・四季祭市場、道の駅おすみ・弥五郎伝説の里、道の駅たからべ・きらら館

〔観光〕悠久の森、桐原の滝、大川原峽キャンプ場、花房峡憩いの森、安楽川溪流、白鹿岳

〔イベント〕弥五郎どん祭り、住吉神社・流鏝馬、熊野神社・鬼追い、溝ノ口洞穴祭り、曾於市悠久の森ウォーキング大会

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。